



わたしとごはんつぶ

桐生市立川内小学校 1年

岸 夢 愛

「ゆめあー、ちょっときて。」おかあさんはすこしおこったように、わたしをよびました。おかあさんは、だいどころにいるみたいだったので、わたしはいつてみました。

「ほら、みてごらん。」おかあさんがゆびをさしました。ゆびのさきのほうをみると、ごはんつぶがいっぱいありました。そのごはんつぶは、わたしのたべたごはんつぶよりも、よれよれしていてしんでいるようにみえました。それは、わたしとおにいちゃんたちの、ごはんをたべたあとのおちゃわんに、ちょこっとだけくっついてたごはんつぶでした。

「これを見てどうおもう？」と、おかあさんがいいました。

「なんか、かわいそうだね…。」と、わたしがいいました。ほんとうだったら、わたしがたべてげんきになるまほうのおこめなのに、のこしてしまうと、おみずにながされて、おぼれてしんでしまいました。

わたしはごはんがすきでいっぱいたべます。おかわりもします。ごはんおかず、ごはんおかず、とたべていると、ごはんがおいしくてとまりません。つついおなかにきかず、ごはんをおおめによそってしまいます。おちゃわんにくっついてながされてたごはんは、おおめによそって、たべきれなかったごはんつぶでした。わたしは、ごはんつぶのことをだまって、「ごちそうさま。」と、いつてしまったのです。それにきがついて、おかあさんがわたしをよんだのです。

わたしは、おこめづくりのビデオをみました。のうかのひとが、あつさやさむさからおこめをまもり、ころろをこめてそだてていることがわかりました。わたしもアサガオを、ころろをこめてそだてています。はながかれると、かなしいきもちになります。のうかのひとがかなしいきもちにならないように、ごはんをのこさずたべたいとおもいます。